



新座市ゼロカーボンシティ宣言

近年、気候変動が原因と考えられる酷暑や集中豪雨等が激甚化しており、これによる自然災害も頻発しています。

2015年に採択されたパリ協定では、世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2℃未満に抑制すること及び1.5℃に抑える努力を追求することが世界共通の長期目標として掲げられています。また、2018年に公表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、気温上昇を1.5℃に抑えるためには2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが求められています。

これらの目標の達成に向け、政府は2020年10月に「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロとする、カーボンニュートラルを目指すこと」を宣言しました。

さらに、本年4月に公表されたIPCCの報告書においては、気温上昇を1.5℃に抑えるためには、世界全体の温室効果ガス排出量を2025年までには減少に転じさせることが必要とされています。

このような国内外の動向を踏まえ、水と緑に恵まれた「魅力ある快適みらい都市にいざ」を次世代にも引き継いでいくためには、SDGsの理念の下、市民・事業者・新座市が一体となって脱炭素社会の実現を目指していくことが不可欠です。

このことから、新座市は、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「新座市ゼロカーボンシティ」の実現に向けて全力で取り組むことをここに宣言します。

令和4年（2022年）5月20日

新座市長

並木 梁